

クローズアップ

NGO・NPO

NPO 法人

えひめグローバルネットワーク ESDでつながる自治体・学校・NPO

はつめい

愛媛県松山市は、環境都市ドイツ・フライブルグ、米国カリフォルニア州都サクラメント、韓国・ピョンテクと姉妹・友好都市を結ぶ国際的な一面と、正岡子規などの句碑やお遍路の「おせったい」文化が随所に残るのんびりした一面が融合する人口約五二万人の中核都市です。

私は、この松山で中学時代や企業勤務期間を過ごした後、英国・ボランティア活動や外務省外郭研究機関（東京）の職務経歴を経て一三年ぶりにUターンし、自ら立ち上げたNPOでグローバルな市民活動に取り組んでいます。

えひめグローバルネットワークについて

えひめグローバルネットワークは、愛媛にいても地球規模のさまざまな課題・ 이슈にグローバルにつながりネットワークできる場にしようとして一九九八年に任意団体として発足し、二〇〇五年にNPO法人化した市民活動団体です。設立目的は、国内外を問わず、地球規模の視点で捉えながら、グローバルに国際、平和、環境、人権、福祉など、社会全般に関する様々な問題の解決・改善を図るため、複数分野を横断して地域密着型・市民参加型で国際協力活動の推進、地球市民教育の普及、セクターを越えたパートナーシップとネットワークづくり、および持続可能な市民社会の構築に寄

与することです。

そして、当団体で特徴的な活動といえば、モザンビーク「銃を鋏へ」平和支援事業が挙げられます。一九九九年、松山市との交渉を経て市民団体への無償譲渡が可能となった放置自転車、市民の手で現地に送り武器との交換物資として平和利用するという活動で、現在までに計六回、六〇〇台の自転車を送っています。この活動でキーワードとなる「モザンビーク」が、日本人の私たちにとって知られざる途上国、特にアフリカの現状や南北問題を代弁するようになると同時に、「放置自転車」が私たちが先進国の消費社会の現状やマナー・モラルなど生活レベルのさまざまな社会問題を代表する身近なものとなり、「学び+行動」の教材となつて注目されるようになりました。

「銃を鋏へ」プロジェクトとは？

1975年にポルトガルから独立したモザンビークは、1992年まで東西冷戦下で代理戦争と呼ばれる内戦が続き、国中に武器がばら撒かれました。和平協定が結ばれた後も武器は残存し、貧困にあえぐ中で治安が最重要課題でした。さまざまなキリスト教が集まる評議会（CCM: Christian Council of Mozambique）が中心となった「銃を鋏へ」平和支援事業が1995年に始動し、日本や他国から送られた自転車やマシンが交換物資となって銃などの武器回収が進みました。現在、モザンビークはアフリカで平和の定着に成功した国として評価されています。回収された武器の大半は、軍隊や政府と協力して爆破処理されますが、一部は平和を訴える武器アートとして生まれ変わります。



↑武器アート

(NPO法人) えひめグローバルネットワーク

〒790-0833 愛媛県松山市祝谷4-1-13 TEL&FAX 089-925-0027

代表：竹内よし子 e-mail: wakuwaku@egn.or.jp URL: http://www.egn.or.jp/

大統領訪問で市民活動がクローズアップ

二〇〇八年には、愛媛県にとって初の国家元首訪問となったモザンビークのゲブザ大統領と閣僚を含む代表団三名を受け入れるという大イベントがありました。一〇年間、モザンビークの平和支援と友好・交流に力を注ぎ続けてきたことが市民活動の成果として評価され、後の愛媛新聞賞や外務大臣表彰の受賞につながりました。

こうした活動は、愛媛新聞で一〇〇回以上、全国紙・テレビ・ラジオ・雑誌などあらゆるコミュニケーションメディアの媒体を通じて報道されましたが、メディアのおかげで幅広い市民活動の社会的信頼が育まれ、市民への啓発・ボランティア活動の促進につながった、そして、教育の現場でも新聞記事などのニュースが活用されて学びが深まり行動へのきっかけづくりになった、というように好ましい循環が生まれ、当団体の公益性・公共性も育ててもらっているのだと思います。

新たな取組

現在、新たな取組として、二〇〇九年度から松山市と協働で進めている事業があります。こうしたモザンビークや自転車を通る「学び+行動」を検証しながら教材・カリキュラムとしてまとめようと「国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム開発事業」を企画し、クレア自治体国際

協力促進事業（モデル事業）に提案、採択され実施しているものです。松山市は、四月に財団法人松山国際交流協会と当団体を協力団体として「松山ESD促進実行委員会」を立ち上げ、市内の小学校での年間を通じて総合学習のカリキュラムを中心に展開しています。児童は、中心市街地に出かけて市内にある放置自転車やゴミのポイ捨てなどの「課題」を発見し、その問題解決に向けての対策を調べながら学びを深めて

「持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年」とは？

ESDは「持続可能な開発のための教育」の英語Education for Sustainable Developmentの頭文字です。「国連ESDの10年」は、持続可能な社会をつくるために人づくり、中でも教育が重要であるという考えのもと、2002年のヨハネスブルグサミットで日本政府が日本のNGOとともに提案し、国連総会で決議されました。ユネスコがリード機関で、2005～2014年までの10年がキャンペーン期間です。

◎参考ウェブサイト：「ESDの10年」推進会議ESD-J www.esd-j.org/

◎関連資料：

- ①わかる！ESDテキストブックシリーズ1 基本篇
未来をつくる『人』を育てよう (ESD-J 発行)
- ②わかる！ESDテキストブックシリーズ2 実践篇
希望への学びあい
一なにを、どう、はじめるかー (ESD-J 発行)
- ③ESD教材活用ガイド
持続可能な未来への希望
(財団法人ユネスコ・アジア文化センター発行)



いきます。課題に挙がった放置自転車問題や途上国問題をテーマとするグループの児童は、松山市役所やNGO関係者から話を聞き、その原因や対策、自分たちに何が提案できるかを考えており、発表というゴールを目指して取り組んでいます。

また、えひめグローバルネットワークは、二〇〇八年に身寄りのない市民の遺贈により譲り受けた家屋を市民ボランティアの手で「フェアトレードカフェ&雑貨WAKU WAKU」として二〇〇九年七月にオープンし、ワン・デイ・シェフ（日替わりシェフ）企画を実施したり、食ベボラ（地産地消の食材を食べてボランティア）、飲みボラ（フェアトレードのコーヒを飲んでボランティア）を勧めたり、フェアトレードを発信するといった新規事業にも着手しました。組織基盤・運営能力が充分でないといったNPO共通の課題の改善策となるよう励んでいます。そして、当団体の「あらゆる人々が人として平和な日々をおくることのできる持続可能な社会の実現を目指します！」というビジョンに立ち返りつつ、これからもグローバルな活動を継続・展開していきたいと思っています。松山を訪問される際には、こんな活動に興味のある市民と出会えるカフェに足を運んで頂けたら幸いです。



↑フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU

クローズアップ

NGO・NPO

環境・国際協力NGO

グローバル・ヴィレッジ もっとたくさんの人にフェアトレードを

設立の経緯

グローバル・ヴィレッジは一九九一年に設立された国際協力と環境保護のNGOです。代表のサファイア・ミニーはイギリス出身で、ロンドンでマーケティングや出版の仕事をしてながら、環境活動や公正な貿易を通して途上国の人々の支援をするフェアトレードなどに参加していました。九〇年に来日し、当時の日本では手に入りにくかった環境問題や貧しい国々の人々のことについて情報を発信してこうと、九一年にNGO「グローバル・ヴィレッジ」を立ち上げました。

問題を提起するだけでなく、ひとりひとりが解決に参加できる方法を提案する中で、フェアトレードを日本でもっと広める必要性を感じ、九三年にイギリスのフェアトレード団体を通じて麻で編んだバッグや手漉き紙のノートなどの輸入を始めました。やがてフェアトレード商品の開発と輸入・販売の業務が拡大したため法人化が必要となり、サファイアと夫で資金を出して株式会社を設立しました。

こうして九五年、グローバル・ヴィレッジを母体組織として、フェアトレードの商品開発・輸入・販売を行う事業体として生まれたのがフェアトレードカンパニー株式会社（ブランド名：ピープル・ツリー）です。一方、NGOグローバル・ヴィレッジは存続して、フェアトレードの普及に向け



↑ネパールの手編み商品の生産者、マル・クバリさん。フェアトレードの収入で娘のシャンティちゃんは学校に通う

ての啓発活動を行っています。途上国の貧困の根本的な原因は何か、それに対して個人は何かできるかを呼びかけるのです。フェアトレード活動のうち商品の開発・輸入・販売と、貧困問題や環境問題の解決の呼びかけという二つの側面を、株式会社とNGOに分けて行う形を取っています。

現在、ピープル・ツリーは世界二五カ国、五〇の団体とフェアトレードを行っています。その商品の生産者はフルタイム換算すると全体で約三三〇〇人。家族を含めると、約一万二〇〇〇人の生活を支えている計算になります。

グローバル・ヴィレッジの活動内容

グローバル・ヴィレッジの活動の柱は以下の三点です。

- ①フェアトレードの普及・推進
- ②南北問題や環境問題についてのキャンペーン活動
- ③途上国のパートナー生産者団体・NGOへの支援

フェアトレードの普及のためには、メ

(環境・国際協力NGO) グローバル・ヴィレッジ

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-1-16-3F

TEL 03-5731-6671

FAX 03-5731-6677

代表: サフィア・ミニー URL: <http://www.globalvillage.or.jp/>



↑「世界フェアトレード・デー2009」でのファッション・ショーの様子。一年で一番力を入れている啓発イベント

ディアと教育の役割が非常に大切です。私たちはイベントや企画で注目を集め、啓発につなげるように努力しています。例えば毎年五月の第二土曜日に、「世界フェアトレード・デー」のイベントを行います。私たちもメンバーとなっているWFTO（世界フェアトレード機関、旧称IFAT）に加盟する七〇カ国三五〇団体をはじめとする世界中のフェアトレード団体やショップが、各地で一斉にフェアトレードをアピールする日です。イベントの内容はさまざまですが、私たちは毎年生産者のシンポジウムやファッション・ショーを開催しています。

また、南北格差や環境の問題に対してもっと多くの人に知ってもらい、行動を促すキャンペーンもグローバル・ヴィレッジの重要な活動です。この二〇〇九年五月には「フェアに着よう! 2009」と題したキャンペーンを開催。好きなブランドに「御社の製品は途上国の生産者の労働環境を守ってつくられていますか?」と問いかけるキャンペーンハガキを送ろう、とアクションを呼びかけました。グローバル・ヴィレッジでは、フェアトレードのパート

ナー団体が多く活動するバングラデシュの衣料品産業で働く労働者の労働環境を改善する活動も支援しています。現地の活動支援とともに、社会をよりよい方向に変えていくための、行動を起こす消費者を増やすことが、貧困や環境破壊のない世界につながります。

現地支援としては、パートナー生産者団体の社会福祉プロジェクトなどへの支援に加え、生産者の技術向上にも力を入れています。途上国の農村で、先進国の消費者が満足する品質のものを作ることは多くの困難が伴います。その中で私たちは流行の要素も取り入れながら商品開発し、高い品質で日本に向けた商品を提供できるように力を注いできました。グローバル・ヴィレッジでは、フェアトレードカンパニーのスタッフがバングラデシュやケニアなどの生産者パートナーを訪れ、技術向上や団体のマネジメント力向上を手助けするための活動費用を一部助成しています。また、生産者を日本に招聘し、日本市場が求める品質のレベルや商品開発について学ばせ、「生産者来日市場体験プログラム」も合わせて実施しています。グローバル・ヴィレッジは今後、こつこつ技術支援活動の比重をさらに高めていく予定です。

自治体への提言と協力の呼びかけ

欧米では日本よりフェアトレードがずっと広く消費者に浸透しています。国レベル

や自治体組織もフェアトレードに協力的です。たとえばイギリス政府は二〇〇九年十一月、フェアトレードを広めてより多くの途上国の生産者を支援できるように二二〇万ポンド（約一七億円）を、フェアトレード財団やその国際ネットワークに資金提供すると発表しました。フェアトレード商品の導入や普及啓発のために、日本でも行政機構や自治体の後押しが得られるよう、働きかけていきます。

現在、グローバル・ヴィレッジの活動は、会員のみなさんからの会費と寄付で成り立っています。フェアトレード商品を買っていただくことでもちろん現地の支援になります。グローバル・ヴィレッジの会員になったり、寄付をしていただくことで、さらにフェアトレードを広め、生産者パートナーの支援を強化することができます。グローバル・ヴィレッジはこれからも、楽しみながら国際協力に貢献できるフェアトレードの良さを伝えながら、より多くの方に参加いただくための情報発信に力を入れ、支援できる生産者の数を増やせるよう活動していきます。



↑フェアトレードの普及にデザイン力は重要。著名なデザイナーとのコラボレーションで開発した商品